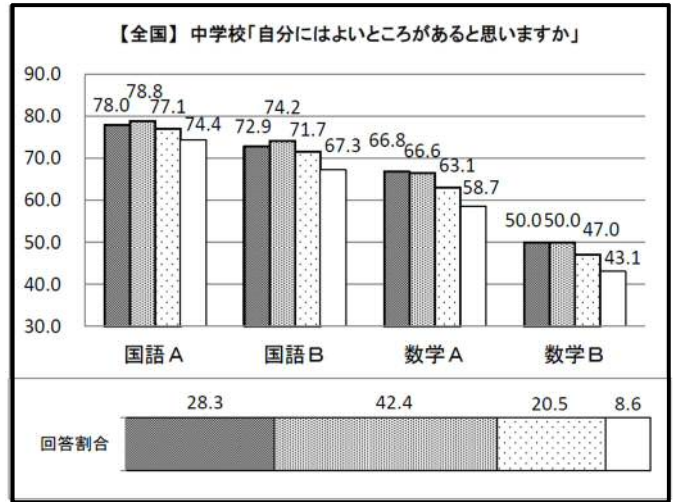
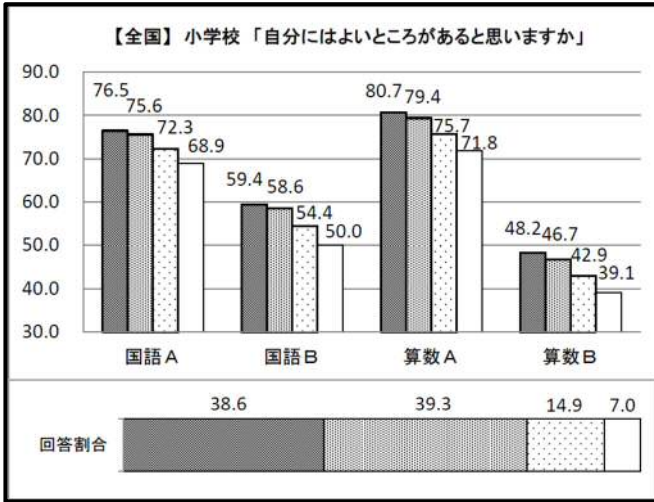
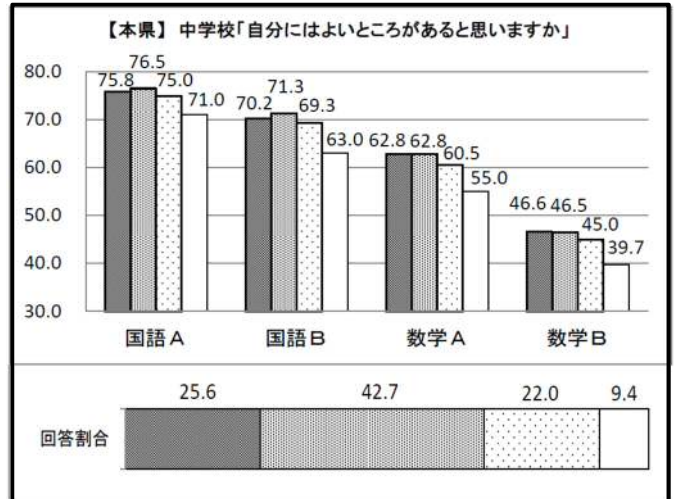
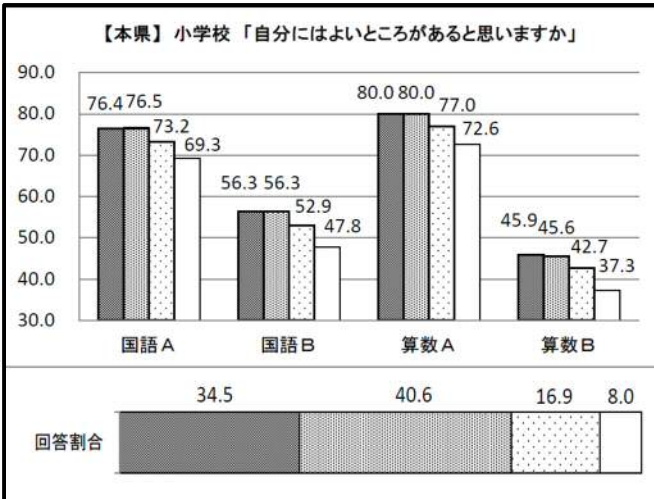


「日頃から子供のがんばりを認める教師の関わり方」や「子供が互いによさを認め合える学級集団づくり」が大切と言われます。児童生徒の自己有用感と学力には相関関係が見られます。

【全国】 当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない



【本県】 当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない



◎ 発表をしたときは、しっかりほめる。

※ 自己有用感と学力の関係は、小、中学校ともに、全ての教科で「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られます。この傾向は全国と同様、本県でも同じです。

しかし、本県の児童生徒は自己有用感がやや低い状況にあります。友達の前で自分の考えや意見を発表することに苦手意識をもつ児童生徒も多いため、「発表をしたときは、しっかりほめる」など、児童生徒の自己有用感を意識した学級づくりに取り組みましょう。